

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200074		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家みなみ 1階		
所在地	名古屋市南区明円町210-1		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2391200074-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、近隣の職員の協力も得ながら交流を継続する取り組みも行われており、地域の方との交流を継続する取り組みが行われている。家族との交流については、運営法人でブログを活用した情報発信も行われており、関係の継続にもつなげている。外出支援についても、現状は限られた範囲となっているが、職員間で感染症対策を検討しながら、利用者がホームの外に出る機会をつくっている。食事作りについても、利用者ができることに参加する機会をつくり、毎日の食事が楽しい時間につながるような支援が行われている。また、当ホームでは管理者が交代しているが、新たな管理者による職員面談等の取り組みが行われており、職員からの意見や要望等がホームの運営に反映できるような取り組みが行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続けることを使命とします」という介護理念を掲示し、朝礼時には声に出して唱和し、その人らしい生活が出来るよう、日々の実践を行っています。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、職員間で理念の内容を振り返る機会をつくっている。また、定期的に職員が目標をつくる取り組みも行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会と自治会の参加、ボランティアでの中井陽水緑道の清掃参加などを行っております。散歩や外出等で積極的に地域に出かけ、近所の方々との会話にも力を入れております。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、ホームは地域の自治会に入り、回覧板等を通じて情報交換等が行われている。また、日常的に近隣の方との交流も行われている。	例年は、ボランティアの方を通じた交流等が行われていたこともあるため、今後の状況をみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内の掲示板や回覧板へのはるす通信の掲示・封入で活動をアピールし、気軽に相談できる事業所として地域に根差すよう取り組み、認知症の理解や支援方法で貢献できるようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催し、入居者様の状況報告、介護保険制度の変更点、グループホーム内の活動・取り組みなどの報告や意見交換を実施していましたが、今年はコロナ禍のため書面による実施となっております。	会議については書面による実施が続いており、書面を通じて、運営状況等の報告が行われている。例年は、複数の地域の方の参加が得られており、様々な分野の方の意見等を参考にしながら運営につなげている。	書面による会議の実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	南区担当者への運営推進会議への参加の働きかけ、市や社会福祉協議会の主催する研修への参加、区役所や社会福祉協議会へのはるす通信持参での活動報告などを実施。積極的な協力関係構築を目指しております。	ホームで生活保護の方が生活していることで、市担当部署との情報交換等が行われている。また、例年は、区内の介護事業所が集まる連絡会にホームからも参加する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針を職員に周知徹底し、毎月のカンファレンスでは事例検討を含めた職員研修を実施。日中玄関への施錠はせず、フロアーの出入り口も施錠せずに自由に出入りできます。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関等の出入り口にも施錠を行わないように、職員間で利用者の見守りが行われている。また、毎月のカンファレンスを通じた身体拘束に関する現状確認や職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法とその内容についてカンファレンスで毎月話し合い、それぞれの職員が意識できる環境を構築。また利用者の様子や身体の状態を観察して、虐待が見過ごされないようし、職員同士でも注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	弁護士が成年後見についての方の入所をきっかけに、職員に日常生活自立支援事業や成年後見制度について意識が芽生えました。それを毎月のカンファレンスで話し合い、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約書の文面は一切割愛せずに全文読み合わせを実施。趣旨をご理解いただき、質疑応答し、入居者様やご家族様の不安・疑問点を尋ね、理解と納得が得られるよう十分に話し合っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様からは日常生活の中で職員が交互に困りごとや要望はあるかお聞きしております。ご家族様からは、来所時、電話の時、ケアプラン更新時の意見書などから意見要望をお聞きし、改善し運営に反映させるよう取り組んでおります。	家族との交流が困難な状況が続いているが、玄関先で面会する等、可能な範囲で交流が行われている。独自のアンケートも行われており、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月の便りの作成やブログを活用した情報発信が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンス、年2回の人事考課の時の面談で職員の意見や提案を聞き反映しております。また、意見を言いやすい事業所内の雰囲気作りとストレスケアにも注力しております。	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換等を行いながら、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人にも伝え、業務改善等につなげている。また、管理者が交代したこともあり、新たな管理者による職員面談等が行われている段階でもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社には人事考課表にて個々の努力や成長を伝える事が出来ております。残業時間数や夜勤回数など、個々の家庭環境との調整を実施し、働きやすい環境を整備し、また今後のヴィジョンを示してやりがいと向上心に働きかけております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月のカンファレンスでの勉強会の実施。また、キャリアアップによる人生設計の支援、資格取得の際の研修費の支援、研修の案内など、職員が成長しながら働ける環境整備に注力しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修に参加した際は同業者と意見交換を実施し、それを持ち帰ってホームで他の職員と共有し質の向上につなげております。南区の介護事業者連絡会にも参加しておりますが、コロナ禍のため今年の会合は中止になっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様に関する情報をできる限り収集して、その方の人生、生活歴、その方らしさに寄り添って、また現在のご要望に耳を傾け、安心して生活ができる様に日々それぞれの職員が関係づくりをするように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用開始時にしっかりとご入居者様とご家族様の意見、困難なこと、不安要素をお聞きし、個々に合ったサービス提供が出来る様に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様の情報を収集し、現在の状況を判断し、どのような支援が必要かを、主治医や看護師、薬剤師など職種専門職と協働し話し合って判断しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のその方らしさ、個性や生活歴、習慣を大切に、出来ることは可能な限りご本人様に行って頂くように支援し、職員はともに寄り添う存在であるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様からは都度その方の情報をお聞きし、またホームでのご様子をお伝えし、その方らしい支援につながるよう協力しながらご本人様をサポートしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人様が大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れないように回想法で支援しております。実際にご友人の電話や訪問があります。また馴染みの場所へドライブでお連れしたりします。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には電話等を通じて交流を継続しており、ホームで電話を取り次ぐ等の支援が行われている。また、家族との外出についても、家族の意向等の確認も行いながら外泊される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活の場で一緒に暮らす仲間という意識を持っていただけるよう、家事などの日常生活支援を入居者様同士で行うよう支援し、関わり合いと支え合いが円滑に進むよう、職員は支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も必要に応じ相談や支援を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の希望や想いを傾聴し、生活歴も考慮して、意見に添える様に努めております。職員間で情報を共有し、モニタリングを踏まえ、ケアプランに反映しております。	職員全員で利用者に関する把握が行われており、日常的な申し送り等を通じて、職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスの時間をつくり、利用者や家族に関する意向等の検討を行い、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様一人ひとりの人生、生活歴、習慣や嗜好、暮らし方を知り、これまでのサービス利用の経過を把握して、生活環境を整え、安心して過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その方らしく生活して頂けるように、それぞれの方の心身状況を把握し、日々の状態変化を観察し、記録に残し、必要時カンファレンス実施しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで個々の状況状態を確認し、チームで支援方法を考えております。またご本人様やご家族様の意見、職員の気づき、関係する専門職の意見を反映した介護計画を作成しております。	介護計画については、3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも介護計画の内容に合わせた記録を残しながら、3か月でのモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に内容の実践や取り組み、気づき、変化等を記入し、職員同士で情報を共有し、毎月のカンファレンスで検討し、介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方らしくあるために、一人ひとりに合った個別ケア、サービスの提供を心掛け、外食、外出、受診同行、買い物、ドライブなどその方その時に合わせたサービスの多様化・多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事参加やなじみの店や場所で過ごす時間と機会を大切に、近隣の公園や中井陽水緑道、天白川、喫茶店などを活用し、地域の方々との交流を図っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医との定期的な医療面の連携があり、内科往診月2回、皮膚科往診月2回、眼科往診月1回、訪問歯科適宜、訪問マッサージ適宜と利用者の健康状態に合わせた対応しております。必要時は職員による受診も対応。	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については、家族による対応を基本に、状況等に合わせて職員による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間看護職員への緊急連絡体制は整え、24時間看護を受けられるよう支援しております。また、職員に正看護師がおり、普段から健康管理や医療面を相談して対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医への紹介状や介護サマリー、介護経過報告書を提出し、安心して治療が出来る様に病院と連携しております。病院のワーカーとは定期的に情報交換等連携を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重症化した場合における対応、及び看取りに関する指針」を説明しております。ご本人様とご家族様の意向をしっかりと確認し、一日でも長くホームで生活が出来るように、協力医、薬剤師、看護師と協力しています。	身体状態の重い方も生活を継続しているが、看取り支援については行われていないことを家族にも伝えており、現状は、医療機関等への移行支援が行われている。協力医との連携も行われており、利用者の段階に合わせた支援が行われている。	身体状態の重い方も生活している現状もあるため、ホームでの看取り支援も含めて、今後に向けたホームの体制づくり等の取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応、応急手当、感染症に対する処置等を研修や勉強会で学び訓練を行っております。今後AEDを設置する方向で検討し、順次普通救急救命講習を受講する予定(現在管理者のみ受講済み)。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施。夜間を想定した訓練や図上訓練、水害想定での対応、通報装置の確認をしています。有事の際はホームでも受け入れが可能であることを推進会議で地域に周知して協力体制を築いております。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等も行われている。水害を想定した対応も行われている。災害に関する地域の方との情報交換等も行われている。また、備蓄品の確保の他にも、発電機の設置も行われている。	感染症問題が長期化していることで、災害に関する地域の方との協力関係が中断している状況でもあるため、今後の状況をみながら、交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様がここに居たいと思える居心地の良さを提供できるよう、職員は接遇の精神でお一人お一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応が出来るよう、日々の朝礼や毎月のカンファレンスで周知徹底しております。	利用者がその人らしく生活することができるような支援を目指しており、職員による利用者への対応の基本にもつながっている。対応が困難な方にも、カンファレンス等を通じて職員間で検討を行い、その方に合わせた支援につなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が一が気兼ねせずに自分の希望や想いを発言できるよう、職員や他の入居者様との関係性を重視し、また適宜職員が介入・フォローして自己決定を促しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それぞれの方に合わせた起床時間や、服装の好み、食事の好み、嗜好性のあるこだわりなど、その方がその方らしく過ごせるように出来る限りの配慮をしております。入浴日や時間の変更も対応します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様が望む身だしなみが出来るよう、個性を大切に、いつまでもおしゃれを楽しめるように支援しております。毎朝の服装はご本人様と決めております。化粧道具等の管理や補充も支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好の把握や出身地の地元料理の調査、日常会話から個々の好みを把握し、また可能な方とは野菜のカットや盛り付け、配膳、下膳、洗い物、食器拭き、片付けなど食事にまつわる全般で楽しんで頂けるよう支援しております。	食事については、その日の状況等をみながらメニューを考えており、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食習慣を把握し、食事量、水分量は毎日記録に残し、摂食量の低下がみられたり、体調等を考慮して、量の増減や補食などを提供。また減塩食ややわらか食などそれぞれの方に合わせた支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	それぞれの方の能力に応じ、一部介助や声掛けを来っております。出来ない方は職員が介助します。訪問歯科医と連携し、口腔内の衛生状態を常に把握し、治療が必要な場合は即対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンの把握を行い、職員間で情報を共有し、自立で排泄可能な方、見守りや声掛けの方、一部介助の方など個々の能力に応じた排泄援助を行い、自立に向けた支援を行っております。	利用者の排泄記録を残し、日常的な申し送り等を通じて、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に、可能な限り、パンツで過ごしてもらうようにパッド等の検討が行われている。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表で排便周期やパターンを把握し、水分量の調整や乳製品、繊維質の提供を行い、自然排便を促します。運動や散歩に加え、場合により緩下剤や坐薬を使用し、正常な状態を維持できるよう支援と予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	今までどのように入浴してきたか生活歴を把握し、その方に合った入浴が出来るよう支援しております。湯船につかる、リフトを使用する、入浴剤を使う、菖蒲やりんご、お花を入れるなど季節に合わせた楽しみも提供します。	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。浴室にリフトの設置が行われており、身体状態の重い方の入浴にも対応している。季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方が気持ちよく眠れるよう睡眠状態の観察、把握を行い職員間で共有しております。昼夜逆転で夜間帯に眠れなくなることがないように日中の活動量にも配慮。また、シーツの洗濯、布団干しも定期的実施しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方がどんな症状で何の薬を飲んでいるか職員は把握し、状態に合わせた服薬方法を理解して、声掛けか見守りか介助か、錠剤か、粉か、ゼリーか最適な方法で実施。主治医・薬剤師と連携し、服薬支援に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力を把握し、得意分野で個々の力を発揮していただき、感謝の気持ちを伝えることにより達成感を感じて頂き、より充実した生活が送れるよう支援しております。職員には役割の大切さを周知徹底しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	近所に公園があるため、コロナ禍においても散歩チェック表を活用し、週2回は必ず出かけます。外食や買い物などはコロナ禍になって激減しましたが、定期的に行っております。年2回、遠出の外出もありました。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームの近隣を散歩する等、可能な支援が行われている。感染症の状況等もみながら、初詣や公園にピクニックを兼ねて出かける等、季節等にも合わせた外出の機会もつづけている。	利用者の外出が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にホームでお小遣いはすべて管理しておりますが、管理できる方に関してはご自身で支払ったりお釣りを貰って頂くようにして、社会との関りを維持しております。毎月お小遣い帳はご家族様に確認いただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様の希望に応じ、ご家族様への電話連絡はいつでもできるように支援しております。手紙が来たら職員と一緒に読んでおります。年賀状も手書きできる方は書いていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられて見当識が維持できるよう、その時々合った装飾や展示物を心掛けております。また、温度湿度を測定し調整、音量や障害物などにも配慮し、過ごしやすい空間づくりを行っております。	ホーム内のリビングは採光に優れており、利用者は日中の時間を明るい雰囲気の中で過ごしている。庭には花壇や畑がつくられていることで、利用者の手入れを行っている。また、季節等にも合わせた飾り付け等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング、台所、ソファなど、それぞれの方が思い思いに好きな場所で過ごせるように配慮し、配置を考えて設置し、入居者様の好みに応じて適宜変更しております。また、好天時は庭で過ごせるよう椅子も用意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様にとって居心地の良い居室になるよう、使い慣れた馴染の物や家族の写真、趣味を楽しめる物品や飾り物などを、ご家族様と相談し、工夫しております。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、現状は全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の安全と安心に心掛け、動線の確保、食害物の除去、手すりの設置、扉の色分けなどの工夫をしております。またカレンダーや時計を設置し、自立した生活が送れるよう支援しております。		